

高視認性作業衣とは

<高視認性安全服の定義>

あらゆる状況で、明視されることを意図した安全服のこと。

・日本防護服研究会「防護服の擁護と定義」Ver.4.0(2010年11月発行)から

高視認性安全服の目的とすることは、目視により車のヘッドライトまたは日光・色彩で着用者の存在を明らかにし、着用者の危険を回避させること。

その為、使用される再帰反射材^{※1}はもとよりバックグラウンドマテリアル(蛍光生地)の色や堅牢度や耐久性のほかデザインや反射材・生地の使用量まで厳しい設定がある。

※1 再帰反射材:再帰反射評価基準を満たすもので、試験は擦り傷・摩擦・降雨の影響・折り曲げ・温度変化など様々な条件をクリアするものとする。

クラス	規定生地	反射材
クラス3	0.8m ² 以上	0.2m ² 以上
クラス2	0.5m ² 以上	0.13m ² 以上
クラス1	0.14m ² 以上 ^{※2}	0.1m ² 以上 ^{※3}

※2 または規定生地と反射材の合計が0.2m²以上

※3 色:蛍光イエロー・蛍光オレンジ・蛍光レッド 他の色は不可

高視認性安全服を必要とする状況

3つのクラスに分類されており、それぞれ推奨される職種・状況が異なります。

クラス	用途・レベル	デザイン
クラス3	<ul style="list-style-type: none"> ・80km/hを超えるスピードの通行車周辺にいる作業員 ・危険にさらされた重労働中の道路作業員と作業機器操縦員 ※高速道路・国道工事作業員・鉄道作業員・事故調査員など	
クラス2	<ul style="list-style-type: none"> ・40km/hを超えるスピードの通行者周辺にいる作業員 ・人気が多く建物や明りのある場所であるものの高視認性が求められる状況にいる作業員 ※道路工事作業員・高速道路係員・空港作業員・警官など	
クラス1	<ul style="list-style-type: none"> ・40km/hを超えないスピードの通行車両周辺にいる作業員 ・人気がなく明りの少ない場所で高い視認性が求められる状況にいる作業員 ※駐車場誘導員・配達作業員・倉庫作業員など	

高視認性安全服の効果

<視認可能距離の比較>

▶ 夜間、車のヘッドライトを下向きにした状態で運転者が歩行者を確認できる距離は、着用している服装の色別では、右図のとおり。

▶ 乾いた路面で、運転者が歩行者を発見してから実際に止まるまでの空走距離、移動距離をあわせた停止距離は、右図のとおり。

例えば時速60km以上で車が走行していた場合、明るい色であったとしても交通事故にあう危険性はかなり高くなる。

紺、黒などの黒っぽい色	26~30m程度
白、黄色などの明るい色	38~50m程度

時速40Km	約32m
時速60Km	約45m
時速100Km	約112m

一方、高視認性作業衣を着用した場合は、諸条件により異なるものの、約60~130m程度の視認性が確保され、高視認性作業衣未着の場合と比べ格段に安全性が増すものである。



欧米諸国の高視認性安全服:着用状況

イギリス(ロンドン)、ドイツ連邦共和国(ミュンヘン)、スイス連邦(ジュネーブ)、ポルトガル共和国(リスボン)等欧米諸国においては交通警察官等が高視認性安全服を着用する事はあたりまえであり、各国では街中で高視認性安全服を着用した警察官をよく目にします。

高視認性安全服に関する今後のスケジュール

